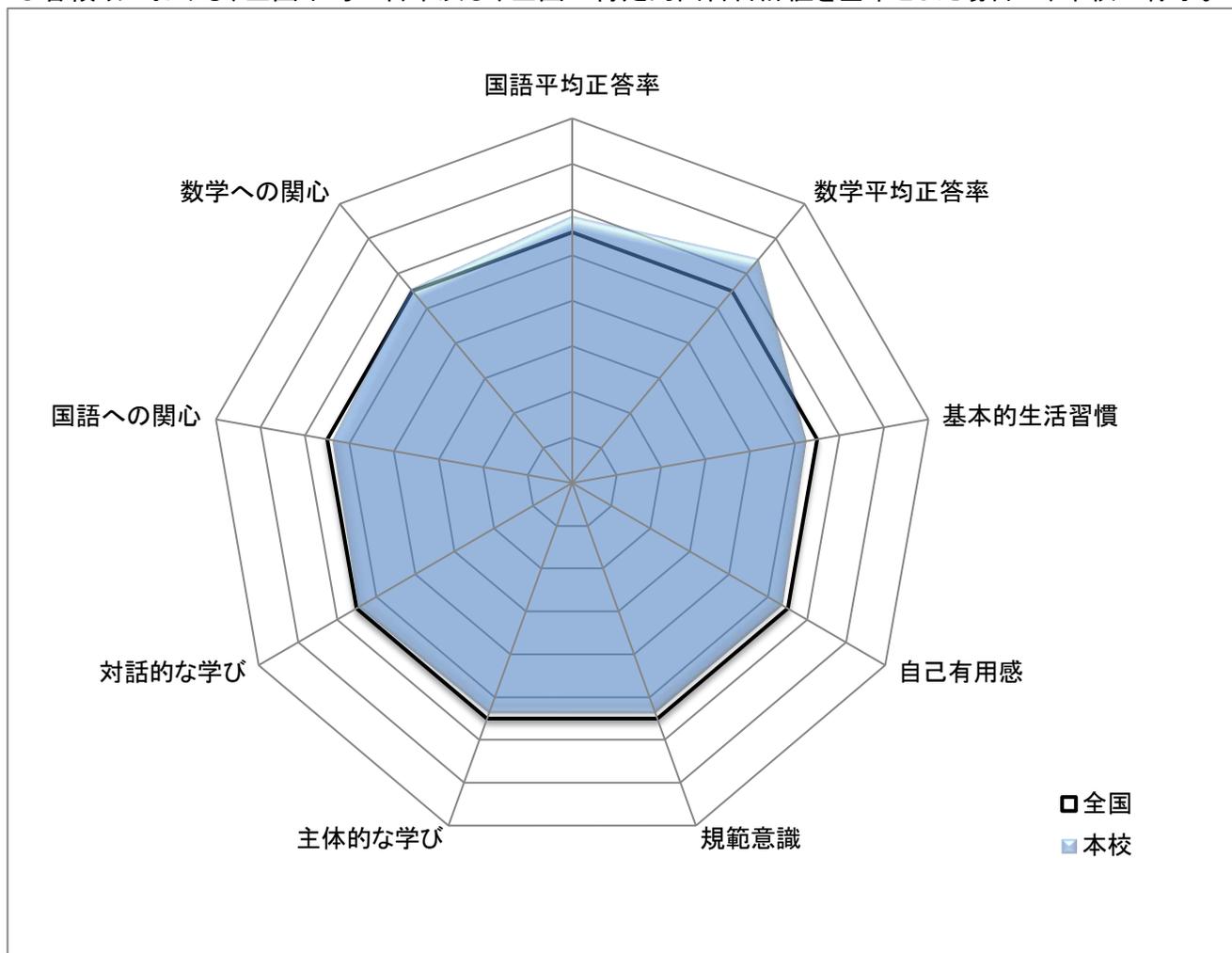


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

全国平均正答率との比較で、国語は、言葉の特徴+5.9%、情報の扱い方+5.1%、言語文化-8.8%、話すこと・聞くこと+5.7%、書くこと+3.0%、読むこと+4.9%だった。数学は、数と式+13.6%、図形+6.8%、関数+5.0%、データの活用+8.6%だった。全教科ほとんどの領域で、全国の平均を上回っている。国語の言語文化のみ、全国平均を下回った。

《授業改善のポイント》

国語では、書くことに重点を置いて、意見文や作文の指導を推進する。読解のポイントや表現の方法を身につけさせる。話すこと・聞くことにおいて、段階に合わせて目標を提示する。場に応じて適切な語句や表現を選ばせ、客観的な視点を持たせるようにする。数学では、一人一人に細かな指導を行い、問題解決型の授業や小グループによる学び合いの実践を行う。自分の考えを発表・説明する時間を確保する。

《チャートの特徴》

全国平均正答率と比較すると、国語+3.9%、数学+9.4%と、全教科で全国平均を上回った。ただし、教科への関心が高いとはいえない(全国比で、国語0.97倍、数学1.01倍)。これと対するよう、生活学習習慣(全国比0.97倍)、自己有用感(全国比0.97倍)、規律意識(全国比0.98倍)、主体的な学び(全国比0.93倍)は、全国平均を下回る結果となった。一方、対話的な学び(全国比1.04倍)は、全国平均を上回った。

《家庭・地域への働きかけ》

定期考査の学習計画表や振り返りシートを通して、学習習慣の確立を図る。また、進路に関する情報を発信し、関心を高める努力をする。学校だより、保健だより、学年通信等を通して、生活習慣の改善をよびかける。